



エルム



vol.59

発行日：平成30年5月16日

平成30年5月16日発行 編集・発行／社会医療法人 北楡会 札幌北楡病院 広報委員会 責任者／太田 秀一

HOKUYU INFORMATION

新年度を迎えるにあたって

いつも当院をご利用いただき誠に有難うございます。

まだまだ寒い時期ですが、日差しの中に春の気配を感じる今日この頃です。本州では早くも桜が満開との便りも届いております。皆様の周囲はいかがでしょうか。

さて、戌年を迎えたお正月もあっという間に過ぎ去り、早くも新年度を迎える時期になりました。新年度にあたって、当院の宣伝を兼ねまして、現状と課題や今後の方向について簡単にご紹介します。

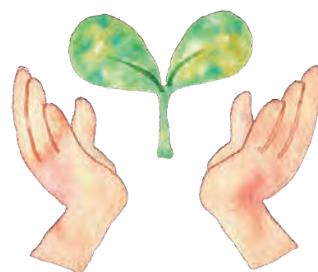
当院は1985年1月に開院しましたので、今年で33年目になります。病床数100床、常勤医6名で始めたのですが、現在は281床、常勤医48名、非常勤医多数の規模になりました。これもひとえに皆様のご協力の賜物と篤く感謝申し上げます。

開設時から、一般的疾患に加え、先進的医療（消化器癌や血液癌、人工臓器、移植、透析を含む血液浄化など）に取り組んで参りましたが、現在もこの基本的領域は変わらずに担っております。しかし、時代の要請に合わせて、地域の他の医療・介護施設と連携しながら、患者さんのその時々の状態に合わせて、切れ目のない

ケアを行うようにシステムを作っております。すなわち、自分の住み慣れた地域全体があたかも総合病院であるようなシステムが国の目標ですので（地域包括ケアシステムといいます）、それに合わせて、院内では急性期病棟のみならず、自宅に戻る前のリハビリを主に行う地域包括ケア病棟や、疾患末期のケアを行う緩和ケア病棟を整備し、全室個室というメリットを生かして（差額ベッドはありません）、アメニティーの向上にも尽力しています。

新年度は診療報酬の改定が行われますが、マイナス改定（全体でマイナス1.19%）にもめげずに、患者さんの使い勝手の良い病院を目指して奮闘する所存です。「頼りになる病院」が目標の一つですので、そのためには皆様の叱咤激励がエネルギーの源泉になります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

院長 目黒 順一



札幌北楡病院 基本方針

1. 患者さんに公正な医療を提供します。
2. 患者さんの権利を尊重し、分かりやすい医療を行います。
3. 患者さんの安全を保障し、快適で安心して治療に専念できる場を提供します。
4. 高度医療を積極的に推し進めます。

◆病院紹介シリーズ

各科 医師のごあいさつ

◆新採用医師の御紹介

◆カンボジアの医師と助産師の 病院見学を受け入れました！



各科 医師のごあいさつ

外科

服部 優宏

外科は米川元樹、目黒順一、久木田和丘、小野寺一彦、堀江卓、服部優宏、後藤順一、谷山宣之、佐藤正法、石黒友唯の10名です。透析・血管外科チームと消化器外科チームに分かれて診療しています。透析関連ではBlood Accessトラブル、維持透析、アフェレーシスに幅広く対応し道内の多くの施設からの信頼を得ています。また、消化器外科は内視鏡外科を重点的に行っており、現在、内視鏡外科学会技術認定医が2名おります。一時停滞していたダヴィンチによるロボット支援下手術も保険収載が増え、今年からは症例を重ねていきます2017年の外科の手術件数は1,449例で、全麻手術は254例です。他科の先生方から、多数の症例をご紹介いただき大変感謝しております。しかし、諸般の事情で皆様のご期待に十分な対応ができないこともあります。恐縮しております。困難な状況でも、標準レベル以上の臨床、学会活動、教育に務めて参ります。今後ともよろしくお願いいたします。

肛門外科

小野寺 一彦

当科が、隣接の旧「白石肛門科胃腸科病院」を引き継いでから早4年が経ちます。肛門外科としての手術件数は年間200例くらいで、内訳は痔核(脱出性あるいは出血性内痔核、外痔核)、裂肛(肛門狭窄)、痔瘻(肛門周囲膿瘍)、直腸～肛門ポリープ、直腸脱、コンジローマなどを対象としたものです。最も多い術式は内痔核に対するジオン注射で、そのうち80例は無麻酔日帰りで施行しました。

一方、前医に通院されていた消化器内科や一般内科の患者はそれぞれ次第に当院の専門科へ移行してもらっています。ただ肛門疾患をお持ちの便秘患者については当科で大勢診ています。

当科のメリットは当院の消化器内科や外科と連携して診断治療にあたれる事です。また血液内科の移植患者では肛門疾患が引き金になる合併症もあり、これに対処するシステムを構築しているのも特徴です。

外科の中でも極めて古い歴史を持つ肛門外科ですが、最新の理論と治療法を合理的に取り入れるよう努めますので、今年度も宜しくお願ひ申し上げます。



腎臓移植外科・泌尿器科

三浦 正義

当科では泌尿器科全般と腎移植の診療を行っております。特に低侵襲手術に力を入れており、通常の腹腔鏡手術に加え、腎、副腎の単孔式腹腔鏡手術を積極的に行っております。また、腎移植ドナーの腎摘出術においては4年前から経腔的腹腔鏡手術を全国唯一導入しており、腹部にほとんど傷のない手術に取り組んでいます。手術支援ロボットのダヴィンチも数年前から稼働しております、前立腺癌に対する標準手術となっております。悪性リンパ腫疑いの方に対する単孔式腹腔鏡下リンパ節生検手術も行っており、全国的にも施行する施設は数少ないですが、化学療法を控えた患者の早い術後回復に貢献しております。道内7施設ある腎移植施設の中で2、3番目の手術件数を施行しており、栄養管理、理学療法も含めた包括的な長期管理を行い、高い長期成績を維持しております。新年度もこれまで通りの2名体制で診療を行いますのでよろしくお願ひいたします。

血液内科

太田 秀一

北海道の長い冬が終わりいよいよ木の芽の萌える季節になりましたが、皆様お変わりございませんでしょうか。

新年度を迎えてご挨拶と血液内科のご紹介をさせて頂きます。近年、血液疾患の診療の進歩は著しく、難治性疾患に対する新規治療薬が続々と開発されております。当血液内科は、診断や治療法に関する新しい知見を文献や各学会・研究会から常に収集し、国内国際学会・論文発表を多数発信しながら、各疾患における最適・最良の治療を目指しています。

また、患者さんには豊富な経験と知識を持つ血液病専門医が丁寧に診療にあたり、最新情報を分かりやすくタイムリーに提供して参ります。さらに、北海道および全国の医療機関とも密な連携をとり多数の患者を受け入れております。

さて、新年度となり新旧医師の交代が多数あり患者さんにはご心配ご迷惑をお掛けしましたことをお詫び申し上げます。しかし、新たに赴任したベテランならびに若手医師らはこれまでの充実した研修と研究を終えた精鋭ばかりです。必ずや皆様のご期待に応え、毎日の診療において大いに活躍すると信じております。これまで以上にやる気に満ち溢れた新生血液内科を今後とも宜しくお願ひ致します。

最後に、皆様におかれましては季節の変わり目、健康にはくれぐれもお気配りされるようお願ひいたします。

消化器内科

片桐 雅樹

消化器内科は、消化管疾患、肝疾患、胆膵疾患を担当しています。

主な疾患は、逆流性食道炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、炎症性腸疾患、機能性胃腸症、胃癌、食道癌、大腸癌などの消化管疾患、急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝臓癌などの肝疾患、胆石症、総胆管結石、胆囊炎、胆囊腺筋腫症、急性膵炎、慢性膵炎、胆管癌、胆囊癌、膵臓癌などの胆膵疾患です。

急性疾患に対応しており、出血性十二指腸潰瘍、結腸憩室出血、胆管炎などに対して、内視鏡治療を隨時行っています。

それに加え、早期胃癌に対しての内視鏡的粘膜下層切開剥離術、手術不能な胃癌、大腸癌、胆道癌、膵癌に対する化学療法、炎症性腸疾患に対する血球除去療法も行っています。また外科治療の適応疾患については外科と密に連携しています。

今年度は6名で診療にあたっています。日本消化器病学会専門医5名、日本消化器内視鏡学会専門医5名、日本肝臓学会専門医3名で、質の高い医療を目指しています。



小児思春期科

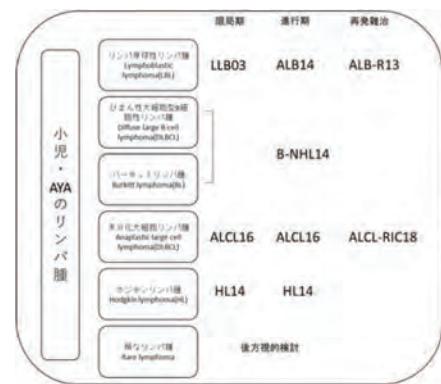
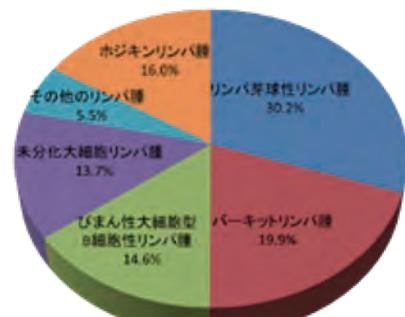
小林 良二

小児思春期科は血液腫瘍専門に病棟を開設して12年目の春を迎えました。ここ数年、医師不足で苦労していましたが春から松島悟医師が赴任し大きな力になるものと期待しています。当科では今まで通り18歳までの血液腫瘍性疾患を中心に(もちろん小児科一般の疾患や年齢枠の若干の拡大もあります)診療を行っていきます。さらに札幌市小児科2次救急体制にも平日3回/月の協力をに行っております。

ところで、当科におきましては小林が平成27年度に日本医療研究開発機構(AMED) 革新的がん医療実用化研究事業「小児リンパ腫の標準的治療法確立のための研究」の主任研究者を拝命いたしました。この事業は3年計画でその1期3年を終了し、平成30年度からは2期目の研究班が認められました。この機会ですので研究班についてご説明させていただきます。

小児のリンパ腫は小児がん(そもそも小児がんが多いですが)の約10%を占める稀少な疾患です。しかし、このリンパ腫はリンパ芽球性リンパ腫・びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫・バーキットリンパ腫・未分化大細胞リンパ腫・ホジキンリンパ腫がほとんどを占め、その病型分布は日本の成人や欧米の小児とは異なったものとなっています。これらの疾患においてびまん性大細胞型B細胞性リンパ腫とバーキットリンパ腫においては成熟B細胞リンパ腫としてまとめて同じ治療を行いますが、それ以外は効く薬の組み合わせが違うため、それぞれに治療開発を行わねばなりません。このため、今まで日本ではリンパ芽球性リンパ腫に対しては限局例にLLB03研究、進行期症例にはALB03研究、さらにその後ALB14研究を行っております。さらに再発難治例には造血幹細胞移植を組み合わせたALB-R13研究を行っております。成熟B細胞リンパ腫に対しては小児に対して初めてリツキシマブ(抗CD20抗体製剤)を併用したB-NHL14研究を、未分化大細胞リンパ腫に対しては国際共同研究であるALCL99に引き続き、40歳までの若年成人を組み込んだALCL16研究、さらに骨髄非破壊的移植を組み込んだALCL-RIC18を今年度中に開始させる方向で動いています。ホジキンリンパ腫は日本的小児では少ないですが、PET検査の反応性により放射線治療を行わない治療を組み込んだHL14研究がすすめられております。さらにこれらの病型以外の稀なリンパ腫に対してはアンケート調査により症例を集積して学会発表・論文作成を行いガイドライン作成を目指しております。今後3年間の研究におきましてさらなる小児のリンパ腫の治療成績の改善が期待されるところであります。

小児リンパ腫の頻度





整形外科

高橋 修司

今年度も変形性関節症に対する人工関節置換術と、高齢者の骨折治療を2つの柱として診療をしていきます。人工関節置換術は元来機能障害を治療する整形外科においては、素晴らしい治療法であり、日常生活の大幅な改善が望めます。ここ数年の手術法の進歩により、術後の臥床期間リハビリ入院期間は短縮され、患者さんの負担は非常に少なくなっています。さらに今年度からは、北大整形外科教室の応援を得て手術症例数が増える予定です。高齢者の股関節周囲の骨折は社会的問題にもなっています。それは上手く治療をしなければ確実に生活レベルの低下をみるからです。当院では他科の先生の協力を得て、出来るだけ早期に丁寧な手術的治療を行い、受傷前の状態に戻すよう努力をしています。これから超高齢化社会に向かう本邦では、強い骨粗鬆症が原因として起こる、脊柱の多発性圧迫骨折も大きな問題であり、骨粗鬆症に対する治療は外来で行っています。

麻酔科／緩和・ペインクリニック

沼澤 理絵

麻酔科と緩和・ペインクリニックを担当しています。麻酔は手術を受ける患者さんを痛みや恐怖から守るためにありますが、麻酔の技術は救急集中治療、ペインクリニック（痛みの治療）、緩和ケアと幅広い領域で生かされています。痛みは最も不快な感覚であり、長く続くと日常生活に大きな支障をきたします。ペインクリニックでは、帯状疱疹に関連した痛み、手術の適応にならないような神経痛などを神経ブロックや薬物療法を用いて治療しています。

また、がん治療と並行して緩和ケアの重要性も高まっています。がんの痛みを和らげることは緩和ケアの大きな柱であり、少しでも皆様の力になれればと願っています。当院には緩和ケアを提供するシステムとしまして、緩和ケアチームと緩和ケア病棟があります。痛みに限らず、辛い症状はすべて緩和ケアの対象になりますので、がん相談支援センターを通して気軽にご相談ください。



新採用医師の御紹介

4月より新しく配属された医師を
8名ご紹介いたします。



辞令交付式の様子



外科 部長
後藤 順一

Goto Junichi

大学卒業から外科医として働き、前任の遠軽厚生病院では外科を中心としながらも広く地域医療を担ってきました。今回、縁があって札幌北楡病院には3回目の赴任となりました。3回目ともなると以前から知っているスタッフが多くいて、温かく迎えてくださり大変にうれしくかつ心強く思っています。また患者さんも覚えてくれている方もおり、ありがとうございます。専門は肝胆膵外科や内視鏡外科を中心とした消化器外科ですが、透析医療も専門としており、透析患者さんの手術、全身管理含め透析医療も幅広く関わっていく予定です。様々なところで皆さんに関わると思いますので、何卒よろしくお願ひいたします。



Okada Kouhei

血液内科 医長
岡田 耕平

4月からお世話になっております、岡田耕平です。

医師15年目になりますが、以前から北楡病院は、通常の化学療法から移植医療まで、血液診療を一貫して行える数少ない病院として知っていました。いつか働いてみたいと思っていた病院であり、この度希望通り、赴任することができました。

働き始めて、まず患者さんの多さに圧倒されています。グループ長の重松先生をはじめ、血液内科の先生方に教えていただきながら、早く慣れるよう、日々診療しています。

忙しい日々ですが、コメディカルの方々をはじめ、病院職員の皆様の診療へのサポートが素晴らしい、ストレスを全く感じずに、純粋に患者さんへの診療に集中できる環境が整えられていて、大変感激しております。患者さんのため、そして広く血液疾患医療の向上に少しでも貢献できるよう、頑張っていきたいと考えています。どうぞよろしくお願ひいたします。

血液内科 医員 原田 晋平

Harada Shinpei

血液内科の原田と申します。北海道札幌市生まれで北海道大学出身です。在学中はアイスホッケー部に所属しており日々鍛錬しておりました。中学高校時代にはバスケットボール部でしたのでバスケットボールもそれなりに出来ます。兎年生まれのサソリ座、O型です。趣味はカラオケ、美術鑑賞、お菓子作りです。見た目から体も大きくて怖い人と思われることもあるのですが、裏腹に非常に繊細な内面をしておりますのでどうぞお気軽にお話しかけてください。

昨年度は北見赤十字病院の内科・総合診療科で血液疾患を始めとして様々な内科疾患を広く扱っておりました。北見はカーリングで有名になりましたが、それ以外にも(お酒の)バーや焼肉、ハッカなど有名で、住むにも観光するにも楽しいところです。何かの機会に立ち寄って頂けたら幸いです。今年度は自分の専門とする血液疾患に専念し、全力で取り組んで参りますので、何卒よろしくお願ひ致します。



Senjo Hajime

血液内科 医員
千丈 創

本年度より札幌北楡病院血液内科に入職いたしました、千丈 創(せんじょうはじめ)と申します。札幌南高校卒業後、平成27年に北海道大学医学部を卒業し、初期研修医を聖路加国際病院で行い、昨年度まで円山の愛育病院血液内科で勤務しておりました。趣味はバスケットボールで、中学、高校、大学とバスケ部でした。もともと、祖母が白血病だったことから、血液内科の道を選びました。祖母は主治医の血液内科医と治療の過程で強固な信頼関係を築きました。私も後期研修医という立場ですが、そのような医師を目指して、当院の理念「患者さんにとって最適な医療を行う」を心に、チームの一員として全力で診療にあたります。若輩者でありご迷惑をお掛けすることが多々あるかと存じますが、ご指導ご鞭撻の程何卒よろしくお願ひ申し上げます。

血液内科 医員 宮下 直樹

Miyashita Naoki

4月から札幌北楡病院で勤務させていただいております、宮下直樹と申します。出身は釧路市で、北海道大学医学部卒です。学生時代は野球部に所属しておりました。

初期研修は1年目をJA北海道厚生連帯広厚生病院で、2年目を北海道大学病院で研修させていただきました。その後北海道大学血液内科に入局し、この4月から札幌北楡病院での勤務となっております。

趣味は旅行(とその計画)で、直近では3月にバンコクに行ってきました。とても暑く私にはなかなかつらい部分もありましたが、とても良いところでした。国内外問わずいろいろなところへ行ってみたいと思っておりまして、どこかおすすめの場所があればぜひ教えていただきたく存じます。

後期研修が始まったばかりでもあり、まだまだ未熟なところも多いと思いますが、精いっぱい努力していきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。



消化器内科 医員 常松 聖司

Tsunematsu Seiji

新しく採用頂きました消化器内科の常松聖司と申します。宜しくお願ひ致します。前任地は北海道医療センター消化器内科で勤務しておりました。その他、北見赤十字病院や市立稚内病院などで主に消化器内科として精進して参りました。

特に消化器領域の治療に専念しておりましたが、地域では特に高齢化の波を強く感じておりました。高齢の患者様は複数の基礎疾患を持ち症状も典型的でないことが多く見受けられます。重症化・長期化し治療方針に難渋することもありますので、ご家族や地域の協力を得ながら診療を進めていく必要があると強く痛感した次第です。

この度、北楡病院消化器内科の末席に加えて頂き、所変われど今までと変わらず先生方のご指導を頂きながら、患者様やご家族様と十分に相談した上で意思の尊重を最優先した医療に勤めていく所存です。今後とも、なお一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



Kubo Akinori

消化器内科 医員
久保 彰則

4月に赴任しました、消化器内科の久保彰則と申します。医師4年目で、消化器内科を先行して2年目です。

出身は福井県で、大学から北海道に移り、今年で北海道在住10年目です。

福井県はよく福島や福岡と間違えられますが、福井は石川県の左下、琵琶湖の上、京都の右上にあります。福井と北海道は一見無縁にみえるかもしれません、北海道開拓移民のピーク時には入植者の3割を富山・石川・福井の北陸3県が占めており、福井は全体で9番目に多かったそうです。北陸からの開拓移民が多かったことから、北陸銀行が北海道にもあるそうです。

不慣れな事も多くてご迷惑をお掛けしてしまうかもしれません、何卒よろしくお願い申し上げます。

小児思春期科 医員 松島 悟

Matsushima Satoru

7年ぶりに札幌に戻り、小児科医として働くことになりました。出身大学の札幌医科大学を卒業した後は、本州の病院で初期研修や後期研修、小児血液腫瘍科の研修をしていましたが、いつか札幌に戻り北海道の医療に貢献しようと考えていました。良いタイミングで戻ることができたと思います。自分は小児科専門医を取得しましたが、小児科医としても小児の血液腫瘍科医としてもまだ半人前です。ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、一人前の小児科医になるよう頑張りますのでよろしくお願ひいたします。理想の医師像を考えると、患者さんの気持ちを理解するための「思いやり」と患者さんに最善の医療を提供するための「知識や技術」を両立する必要があります。さらに患者さんから得た知見を発信して医療の向上に貢献することも重要です。日々の業務に追われ簡単なことではないと実感しますが、札幌北楡病院で先生方に学び実践していきたいと思います。



外来診察担当一覧

午前

(平成30年4月1日現在)

	月		火		水		木		金		土
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前
内科 血液内科	小笠原 宮下 太田 皆内	小林 今高 重小	今村 川松 重林	岩崎 岡千 [SO外来] 小林 (15:00~16:00) (完全予約制)	小林 小笠原 皆内	今村 高原 内松	小太 林田 岩笠	宮下 内山 山笠	岡田 小林 皆山	内川 橋田 原	今重 松丈
消化器内科	片桐 小笠	加藤	加藤 小笠	高野	小片 筐桐	常松 [肝専門外来] 須田 (13:30~14:30)	高野 久保	片桐	片桐 常松	久保 小笠 (15:00まで)	交代医師
腎臓内科								山村			
糖尿病代謝内科					※1澤村		※1澤村		澤村		
循環器内科					交代医師		交代医師				
外科	米川 (隔週) 後藤	目黒	服部 (隔週) 石黒	佐藤/石黒 (隔週交代) 久木田	目黒 服部	堀江 山谷 [フットケア外来] (13:30~16:00) (完全予約制)	堀江	小野寺	久木田 佐藤	交代医師	交代医師
肛門外科	小野寺		宮下	山内	宮下	山内	小野寺		宮下	山内	交代医師
腎臓移植外科 泌尿器科	三浦(9:30~) (原則予約診療)				東山		三浦(9:30~) (原則予約診療)		東山		
整形外科	東山		東		高橋		東		高橋		
小児 思春期科	小林(邦) 小林(良)	小林(邦) 佐野	小林(邦) 鈴木	堀 [アレルギー外来] 小林(邦)	小林(邦) 佐野	大島 鈴木	【血液外来】 小林(良) (完全予約制)		松島 小林(良)	堀 [血液外来] ※2小林(良) (完全予約制)	交代医師
スリーブ外来			中尾				中尾				
緩和・ペインクリニック (完全予約制)					沼澤						
禁煙外来 (完全予約制)		三浦									
歯科 (完全予約制)	加藤		加藤/大畠	加藤			加藤/北大医師	加藤	加藤	加藤	

免疫細胞療法 (完全予約制)	小笠原	小笠原	小笠原	小笠原 太田	小笠原	小笠原	小笠原
-------------------	-----	-----	-----	-----------	-----	-----	-----

◎免疫細胞療法専用予約電話：0120-75-5706

免疫細胞療法は保険外診療のため、保険診療との併用はできません。ご希望される方は事務員にお声掛けをお願いいたします。

※1 糖尿病代謝内科：第3水曜日・第3木曜日は休診となります。ご注意ください。

※2 金曜日午後的小児思春期科小林良二医師は「長期フォローアップ外来」「セカンドオピニオン外来」も併せて担当しております。

◇ 都合により代診・休診となる場合がございますので事前にご確認をお願いします。

外来予約 電話受付

【平日のみ】午前9時00分～12時00分／午後13時30分～16時00分

予約専用電話 TEL 011-865-0201

注：歯科の予約は011-856-0111(病院代表電話です)

- 予約の際に受診科、氏名、生年月日をお知らせください。
- 日曜日、祝日は診療をしていません。
- 土曜日は予約診療を行っていません。
- 予約がなくても診察を受けることができます。
- 診療の際に、前後の患者さんの状態で、多少時刻が変わることがあります。

カンボジアの医師と助産師の病院見学を受け入れました！



血液内科診療部長 太田 秀一

カンボジアでは今も貧しい人々にとって医療は身近なものではありません。また、内戦の影響で医療従事者の減少のみならず、大学の医学部も少なく、貧困により医師や助産師になることも厳しい現状です。札幌の有志が設立した「みらいアンコール基金」ではカンボジアの子供たちへ支援活動を行い、医師と助産師を育成してきました。



本年4月上旬、みらいアンコール基金により支援を受けた医師、助産師などが日本の医療機関の見学のため来日し、当院でも9名のカンボジア人を受け入れ見学ツアーを行いました。

当院の施設を案内しながら特色などを説明すると、若い皆さんにはとても興味深く真剣に見学されていました。当院での経験がカンボジアの医療に少しでもお役に立てればと願っています。



編集後記

いつも広報誌エルムをご覧いただきありがとうございます。久しぶりの発行となってしまい申し訳ございません。今年度より年に3回、今まで以上に充実した内容を皆様に提供していきたいと思いますので、今後ともよろしくお願ひいたします。
(Y・T)

 社会医療法人 北楡会 札幌北楡病院

診療科目

外科・肛門外科・消化器外科・腎臓移植外科・泌尿器科・内科・血液内科・消化器内科・腎臓内科・糖尿病代謝内科・循環器内科・小児思春期科・整形外科・麻酔科・放射線科・歯科

住 所 札幌市白石区東札幌6条6丁目5番1号
TEL: (011) 865-0111 FAX: (011) 865-9634

交 通 地下鉄白石駅5番出口から環状通り 北の方へ徒歩5分左手

ホームページ <http://www.hokuyu-aoth.org/>

